

いなほ

第77号

2018年6月20日 URL <http://www.mo-e.jp>

NPO 法人 萌

代表 波多江伯夫

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B型事業所

工房 いなほ

相談支援事業所 ふかや

グループホーム 独歩

TEL 045-443-7416

アディクションを考える

相談支援をしていると、さまざまな問題を抱えている人たちと出会う。

Aさんは、退院後グループホームに入居して作業所に通うことになった。夏が過ぎ秋になると体力がついてきた。冬を迎えようとするところに、企業就職をする人たちの噂が広がった。自分もいつか再び企業に働けるだろうかという不安がでてきた。本格的な仕事をしたいと始めてみたが、思うようにいかずストレスが溜まった。相談していた支援者が次々と退職していった。辞めていたアルコールを始めた。焦りとできない自分そしてだれもいない孤独感にアルコールの量が増えていった。ある夜、夜中を歩き回り、彼岸と此岸をさまよひ、朝を迎えた。あれから6ヶ月。作業所に再び通い始めた。

断酒していたのに、意思が弱いから再開したのであろうか。自分では気づかなく体が反応して、飲みたいという欲求が高まったからだろうか。それとも分かっているのに自暴自棄で飲酒したのであろうか。

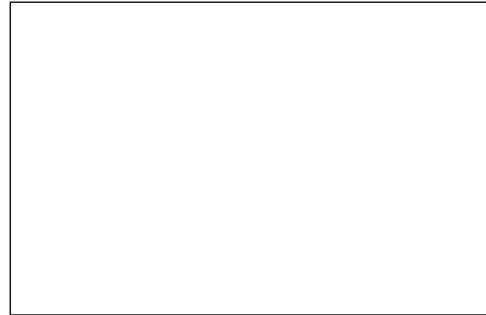
アディクション(嗜癖)としての依存症。断酒をしますと言って、再び飲酒を繰り返す依存症の治療は難しいといわれている。だからといって何もしないしていると、絶望の海に溺れてしまう。それだけは避けたい。定期的に話し合うことにした。

どうして飲酒するのだろうか。シラフでの生活はつらいのだろうか。「人間関係がつかず生きづらい、分かっているけどシラフで考えるとつかず、飲酒していると心が和む」「自分のモヤモヤな気持ちを理解して、まして依存症の人間を理解してくれる人はいなく、いてもいつの間にか去っていく、人を信じられなく、酒に頼ってしまう」。気持ちを和ませるために酒の量が増え耐性が形成されていく。離脱症状で苦しみ、社会との関係が切れていく。酒からも見捨てられる。それでも人よりも酒を信ずる。

生きづらいとはどういうことなのか。モヤモヤとする気持ちを言葉として表現できなく、言えないつらさ。内に秘める苦しさは、我慢の壁をふっと飛び越えて酒に走る。

生きづらさは、断酒しても何も変わらない。飲酒すればなおさら辛くなる。生きづらさは酒ではないようだ。ではなんだろうか。分からないが、いま言えることは、語る言葉の行間に隠された人を信ずることへの失望感のようなものを感じる。

こうして行きたい私の木工の目指すところ



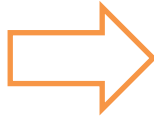
木工班の目指すところ、それは今までもこれからも変わりません、

お客様への真心です。僕は過去に、店員のアルバイトをやっていた時期がありました。忙しい時は只々客をさばくだけ、ひたすらレジを打ち、「ありがとうございました！」と、客を突っ返す、僕の後悔のひとつです。もう客商売をやることはないだろう、そう思っていました。萌に来る数年前、ある小さな中古車屋でアルバイトをしていました。オイル交換や、軽整備をして車検を通してくるのがメインの仕事でした。小さい店ですので、お客さんが来たら「いらっしゃいませ」と、ツナギを着て接客。店員は社長と僕だけ。ある日、社長はバイクでツーリング、店には僕だけという日がありました。お客さんが来ました。20代前半のお兄さん、マニュアルミッションのスズキアルトを気に入ってくれて、精一杯接客したところ、「これにします」なんと売れてしまった。「えー買うのー！」と心の中で叫んだ。自分で車なんて売ったことがなかったので社長に電話、書類の書き方を教わって、内金貰って、後日車検を通したアルトを納車、すごく喜んでくれたお兄さん。僕は営業の醍醐味を垣間見た感じがしました。「俺、こっちの道もあったかも」なんて。

木工製品を作っていて、顔も見えない誰かが商品を手にして喜んでくれる、それを糧にやっておりました。それが最近お客様の顔が見える機会がふえてきました。ある方から大好きなギタリストにプレゼントしたいピックアップケースの制作依頼があり、完成した商品を先日行われたライブの日同行させていただき、お渡ししてきました。とても喜んでいただき、早速ピックやカポをケースに入れてくれていました。この瞬間こそ木工班の醍醐味です。

あなたの食文化は豊かですか？

畑で獲れたじゃがいもでて作りコロッケ作りました。



ダーリンさんへ (*理事長のこと)

ダーリンが一生懸命育ててくれたじゃがいもで、私と息子がずーっと食べたかったじゃがバターをはたえハニーに作り方を教わって、食べさせて頂きました。すごく美味し過ぎました。きっと、それは、ダーリンさんが愛情と優しさが、こもっていたから、大きく立派な、じゃがいもに育ってくれたんだと思います。貴重なじゃがいも、料理に作ってしまって、ごめんなさい。味わって1こ食べさせて頂いたけれど・・・じゃがバターも、ほかほか・・・

なんとも言えない気持ちがこみあげてきました。

息子も、じゃがいも好きだし、じゃがバター食べたいと言っていたので、ぜっ
たい喜んでくれると思います・・・。じゃがいも・・・ほかほかな気持ちにさせて
くれてありがとうございます。

訪問看護との連携をしました…

泉区にあるえがおナースケアステーションと工房いなほで連携し、医療的なケアの必要な利用者に訪問看護をしてもらうようにしました。

代表取締役 飯島美佳氏から…

工房いなほに通う利用者の中には、病状が不安定な人や疾患を抱えながら作業している人たちもおり、当ステーションで関わる利用者は現在 3 名います。いなほに通うことを生きがいとしており、私たちも「その人がその人らしく」いなほに通いながら生活ができればと支援させていただいております。私たち訪問看護師は、地域で暮らす人が病気や障がいを抱えていてもその人らしい生活が送れているかを看護の視点で応援する仕事をしています。「人を見る、生活を見る」と考えた時、私たち医療分野の者だけで行うには無理があります。地域で生活をする人を支えるには、福祉や看護の人たちと連携し、一緒に手を組みながらやっていかなければならないと思います。今回いなほと関わらせて頂き、いなほへ通う利用者にとって何がベストであるのかを考え、そのためにはどのような支援が必要なのかを皆で話し合い、実行に移すまでの一端を担うことができ、大変うれしく思います。国も地域で働く障がい者が安心して過ごせるように、訪問看護ステーションとの連携を推進しています。全ての人たちが安心して生活ができるよう、今後も関わっていきたいと思います。

横浜市泉区中田東 1 丁目 6 - 1 フラザエテル / 203 号室 TEL 045-873-6122



******* パレット班で工場近くの居酒屋で交流会をしました*******

編集後記

6月17日第10期のNPO法人萌の総会が開かれた。設立当初の理事は2名が亡くなった。数年前2名が辞められた。今年3名が辞められた。当初からいるのは、理事長と私だけになった。新旧交代の波が来ている。萌の理念「鳥は空へ 魚は水へ 人は社会の中に 私たちは共に自分らしく生き ところ豊かなる未来を實現します」理念の表現は今後変わるかもしれない、でも、この行間にこもった心は忘れないでもらいたい。(所長)